

2017年10月4日、5日の2日間にわたり、東京で、経済産業省および国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構が主催し、外務省および環境省が共催する、「Innovation for Cool Earth Forum (ICEF)」が開催されました。この ICEF は、「エネルギー・環境技術版ダボス会議」とも言われており、世界トップクラスの政策担当者、ビジネスパーソン、研究者が、それぞれの垣根を越えて気候変動問題解決のイノベーションの促進に取り組むためのもので、2014年以降、毎年開催されています。4度目の開催となる今年は、弊社から代表取締役社長の筑紫みずえがスピーカーとして登壇し、SRIの役割について紹介させていただきました。

お話ししたセッションは、「Role of Diversity: Challenges for Climate Change」です。気候変動対策のイノベーションを推進するために、ダイバーシティが果たす役割や重要性、女性のエンパワメントに向けた取り組みと、そのことがイノベーションをもたらす可能性について、などがテーマとなっていました。

まず、途上国における便利な太陽光発電機を、若い女性研究者が開発した話を踏まえながら、研究分野でのダイバーシティの重要性を述べた海外の研究者のスピーチがありました。次に、ハリケーンなどの大きな災害の際、貧困で、しかも女性であるほどその被害を受けやすいといった具体的な事例を踏まえた上で、従来の教育では不十分だった女の子への理系教育の重要性を話した海外の女性研究者がいました。また、ある事業会社からは、消費者が気候変動に果たす役割という観点から、今後、新しい技術を用いたどのような消費財がCO₂排出削減につながりうるか、それをどのように多くの人々に届けるか、といった話があり、興味深いものでした。途上国の高等教育機関のトップからは、世界各国の教育機関の連携の重要性について話がありました。

SRIの観点からは、SRIが従来の投資家とは違う、個人や女性のイニシアティブで発展してきた歴史的経緯や、今後の可能性、特に投資主体としての日本女性の潜在的な能力について紹介しました。こうした新しいタイプの投資家によってSRIが生まれたこと、SRIは長期的な視点での投資であり、それが企業経営の長期的な取り組みを促進すること、金融における女性のエンパワメントが投資家の多様性をもたらす、たびたび起こる金融市場のショックを緩和し、金融のサステナビリティにつながるのではないかと、といった論点で話しました。

このように、世界各国から登壇した政策担当者、研究者、ビジネスパーソンがそれぞれの専門分野から提案し、ディスカッションする様子を見ながら、このセッションの場そのものがダイバーシティを具現化していると感じました。

気候変動に対しては、様々な政策や研究分野のイノベーションが必要です。そして、金融には、そうした政策や産業のイノベーションを支えるという重要な役割があります。金融に多様性とイノベーションがあることで、産業のイノベーションが実現するのではないのでしょうか。従来の金融の常識を打破して、今や23兆ドルの市場になったSRIは、金融のイノベーションとも言えます。